

5. 甲信越（地域別調査機関：株式会社日本経済研究所）

（－：回答が存在しない、＊：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計動向 関連  (甲信越)	◎	高級レストラン（経営者）	来客数の動き	・予約状況が良く、客単価の上昇に伴い、売上も増加している。
	◎	遊園地（職員）	お客様の様子	・新型コロナウイルス感染症の5類移行や旅行機運の高い状況に加えて、新アトラクションのオープンや園内イベント、ライブイベントが好調に推移し、来客数が増加している。
	◎	その他サービス [葬祭業]（経営者）	お客様の様子	・今月は生活保護受給者の依頼が多かった。病院のケースワーカーや施設の人でも当社を知ってくれるようになってきている。
	○	商店街（代表者）	来客数の動き	・前月に続き、観光客の増加を感じているものの、インバウンドは余り影響がなく、年配客が多い。
	○	スーパー（経営者）	それ以外	・前年比で売上は40%増加、来客数は前月同様に24%減少となっている。コンサートイベントも無事に終わった。仕出しの数が多かったり、納品時間が早いと、毎日している仕事ではないため、できるだけおいしい物や喜ばれる物を提供したい気持ちはあるが行動が伴わないこともある。許容量を超えた120%くらいまではこなしたいが、最低限、食品の事故は避けたいので、断る勇気も必要だと感じている。食中毒事故の報道内容に、他人ごとではなく、食品を扱う者として緊張感を持っていきたいと感じている。
	○	コンビニ（経営者）	単価の動き	・商材価格の値上げに客が慣れてきたのか、やや良くなっている。
	○	コンビニ（経営者）	単価の動き	・物価の上昇で、単価も高くなったため、売上は上がっている。
	○	コンビニ（店長）	お客様の様子	・今月は行事が集中して開催されたため、大分売上が増えている。ただし、日々の売上は特別大きく変わっていない。
	○	観光型旅館（経営者）	販売量の動き	・新型コロナウイルス感染症の影響も減ってきて、売上は新型コロナウイルス感染症発生前の状況に戻っている。特に、今月は残暑が厳しかったためか、涼しい当地への入込客が多く、ちょうど新型コロナウイルス感染症発生前と同等の水準に達している。
	○	都市型ホテル（スタッフ）	来客数の動き	・好調が続いているものの、この数か月より、若干勢いが落ちてきている。週末になれば個人客に動きがあり、平日は法人関係の動きがあるため、好調が継続している。
	○	観光名所（職員）	来客数の動き	・来訪客、売上共に、新型コロナウイルス感染症発生前の水準に戻ってきている。
	○	その他レジャー施設 [ボウリング場]（経営者）	来客数の動き	・企業や団体からの予約が、新型コロナウイルス感染症発生前とまではいかないが、徐々に戻り始めている。一般客も家族連れを中心に戻り始めている。
	□	百貨店（経理担当）	お客様の様子	・食品関連の催事や特選ブランドは、前年と比べ好調に推移している。一方、残暑の影響で、婦人や紳士の衣料品は初秋物の動きが鈍い。
	□	スーパー（経営者）	来客数の動き	・来客数は増加しているものの、買上点数は減少している。単価の上昇でカバーされた結果、既存店の売上は前年実績を超えている。
	□	コンビニ（経営者）	販売量の動き	・前年と比べてやや暑い日が続いている分、若干売上は良いと思うが、特別伸びている様子もないため、変わらない。
□	衣料品専門店（経営者）	販売量の動き	・よく分からない。	
□	乗用車販売店（経営者）	販売量の動き	・新車供給の回復から、売上台数が増加している。自動車のメンテナンス需要も高まってきて、整備入庫も増加している。	
□	乗用車販売店（経営者）	販売量の動き	・この暑さで一般整備の入庫が多くなり、車検台数も若干だが目標を上回っている。一般整備や板金等の部品や材料の価格高騰で、リサイクル部品等を使い、客の予算に合わせるパターンが多くなっている。	

	□	自動車備品販売店（従業員）	単価の動き	・オイルやバッテリー交換等のメンテナンス需要は好調であるが、高額品であるカーナビやドライブレコーダー等は厳しい状況のため、全体的には客単価が下がっている。
	□	その他専門店〔酒〕（店長）	販売量の動き	・9月前半から後半にかけては、一進一退の様子だったが、9月終盤は非常に人の動きも良くなってきた感じがする。10月に入ってもこの良い調子がしばらくはあるかもしれないが、諸物価の上昇で、酒の購入に影響が出るのではないかと心配している。飲食店は、比較的、宴会ができる店を中心に動いてきている。
	□	一般レストラン（経営者）	販売量の動き	・顕著な伸びはみられない。
	□	スナック（経営者）	来客数の動き	・いずれにしても、地方は景気が悪い。毎回のことで何を言えばよいか分からない。
	□	旅行代理店（副支店長）	販売量の動き	・3か月前と同様、受注は堅調に伸びており、景気上昇は継続している。
	□	タクシー運転手	販売量の動き	・今月24日までは若干数字が悪く、前年比100%は超えない予想だったが、25日に初乗り運賃を値上げしてからやや良くなり、超えそうな状況になっている。
	□	通信会社（社員）	単価の動き	・新規顧客獲得件数は予算未達が続く苦戦しており、バンドル率も低調である。特に、固定電話、多チャンネル放送サービスが増えてこない。
	□	ゴルフ場（副支配人）	単価の動き	・プレー料金を下げれば集客することはできるが、物価上昇のなかで、利益の確保との兼ね合いが難しい。
	□	設計事務所（職員）	来客数の動き	・仕事の依頼数は増えており、同時に複数物件の設計をしている。
	▲	商店街（代表者）	来客数の動き	・コロナ禍は収まってきているものの、街への人出は回復の兆しが無い。イベントに多少の人だかりはできて、購買につながるわけではない。
	▲	一般小売店〔家電〕（経営者）	お客様の様子	・いろいろな物の値上げが報道され、買い控えがみられる。季節商材の動きも止まり、静かな状況で、他の商材の動きも少ない。
	▲	スーパー（副店長）	販売量の動き	・度重なる値上げにより、客のアンケートや意見等で「値段が高い」という声が圧倒的に多くなっている。
	▲	コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・売上は前年比100%を超えているものの、来客数が伸びず90%台となっている。天候と物価高により、やや悪くなっている。
	▲	家電量販店（店長）	来客数の動き	・季節商材の需要が終わり、来客数が減少している。
	▲	スナック（経営者）	来客数の動き	・8月までは非常に回復していたが、9月に入って急に落ち込んでいる。新型コロナウイルスの新規感染者数が増え、周囲で感染したという話が聞こえだすと、人は街に出なくなる。
	▲	都市型ホテル（スタッフ）	来客数の動き	・宿泊客に関しては、新型コロナウイルス明けの特需から少し落ち着いたような感じで、客足が思ったよりも伸びていない。6月と比べて県外客が2%ほど落ちている。新型コロナウイルス明けの反動やガソリン代の高騰の影響があったかもしれない。
	▲	ゴルフ場（経営者）	来客数の動き	・人件費が上昇しているため、配偶者特別控除額なども拡大すべきである。原発再稼働を含め、エネルギー価格を下げる方法を実行してほしい。
	×	—	—	—
企業 動向 関連 (甲信越)	◎	—	—	—
	○	電気機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・イベント向け製品の注文が増え、若干の増産もある。前年より秋口のイベントが多くなっている。
	○	金融業（経営企画担当）	取引先の様子	・個人消費や設備投資の増加で、やや良くなっている。
	□	食料品製造業（営業統括）	それ以外	・ガソリン価格の高騰や記録的な猛暑により、工場来場者数が減少している。
	□	窯業・土石製品製造業（経営者）	取引先の様子	・毎年の季節商材受注はあるものの、店頭販売向け商材等の受注はほとんどない。
	□	電気機械器具製造業（従業員）	受注量や販売量の動き	・小口ではあるが、安定した受注を請けている。
	□	建設業（経営者）	受注価格や販売価格の動き	・受注は順調であるが、今後は人手不足が心配である。

	□	金融業（調査担当）	取引先の様子	・製造業は主力の電子部品など半導体市場の停滞の影響を受けている。一方、非製造業は観光業で持ち直しの動きがみられるが、物価高による消費者の節約の影響も見え始めている。
	▲	その他製造業 [宝石・貴金属]（経営者）	受注量や販売量の動き	・今月はホテル催事に参加したものの、全体として来場者が減少し、単価の低下も著しく、売上は不振である。新型コロナウイルス感染症の5類移行後は、催事を開催してもこの傾向が続いている。ルートセールスでは、多少客が戻ってきたところもある一方、いまだに集客が戻らない店が多い。円安、地金高騰の影響が大きく、商品作りが難しく、再発注では価格が3～5割上がってしまい、利益を大きく圧迫している。
	×	食料品製造業 （製造担当）	競争相手の様子	・売上が伸びず、廃業を決めたところもある。また、原価に見合わない価格で売る同業者も出てきている。
雇用 関連	◎	—	—	—
	○	—	—	—
(甲信越)	□	求人情報製作会社 （総務担当）	求人数の動き	・当社は求人情報誌を発刊しているが、ずっと求人数が増えてこない。当社以外の媒体も同様か、求人件数が減少しているように見受けられる。どこも人手が欲しいはずなのに、掲載への動きがない。
	□	職業安定所（職員）	求人数の動き	・アフターコロナのムードを反映して、関連するサービス業や宿泊業、飲食店、バス、タクシー関係の業種で、求人の増加が認められる。一方、食料品製造業等では原材料費や燃料価格の高騰が収益を圧迫し、求人が手控えられている感がある。価格転嫁による買い控えや人手不足によるサービス低下が、消費低迷につながるのではないかと懸念される。
	□	職業安定所（職員）	周辺企業の様子	・原材料や光熱水費の高止まりが続いている上に、最低賃金の引上げによる全体的な人件費の増大等、企業経営を圧迫する要因が今後も継続するという予想から、攻めより守りの姿勢が強くみられる。
	▲	人材派遣会社 （営業担当）	それ以外	・自動車を代表格として、物価高騰が今まで以上に目立っている。週末のスーパーへの買物でも3割ほど支払が増えており、とにかく購買意欲が湧かないという話が多い。
	×	—	—	—